

# 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた 授業改善のための研修プログラムの作成と考察

三重県教育委員会事務局 研修企画・支援課 企画・支援班 研修員 大形 マミ

## I 研究の目的

資質・能力の育成を目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が進むよう、単元のまとまりを見通した指導計画を立てることができる研修プログラムを作成する。

## II 研究の内容

### 1 研修プログラムの作成

#### (1) 目指す研修プログラム

- ・受講者が演習を通して「主体的・対話的で深い学び」を体感しながら、その学びのイメージを共有することができるアクティブ・ラーニング型研修。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点で単元の指導計画を検討する演習を通して、単元のまとまりを見通す必要性が伝わるとともに、授業改善につながる研修。

#### (2) 研修プログラム（試案）の作成方針

##### ア 授業改善につなげるために

協力校の研究教科である算数科で作成し、演習ではそれぞれの学年団等のグループが希望する単元を扱う。

##### イ イメージを共有するために

講義の中で、子どもの「主体的・対話的で深い学び」の姿を扱い共有できるようにする。

単元構成のイメージ（例）（図1）として、単元前半を「知識の習得」の場面、後半を「知識の活用・発揮」の場面として紹介する。

##### ウ アクティブ・ラーニング型研修にするために

教科書や指導計画を見て、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」をしている子どもの姿に結びつくような手立てや気づきを出し合う演習を設定する。

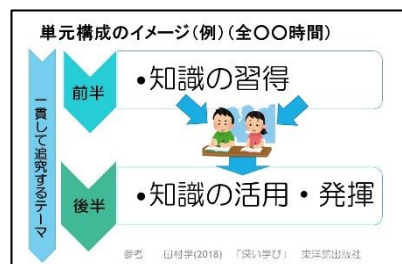


図1 単元構成のイメージ（例）

### 2 協力校での実践と考察

作成した研修プログラムを検証するため、協力校2校で計3回（8月、11月、12月）実践し、教員のアンケートや作成した物（図2）を分析した。

8月の実践で受講者が記入した「主体的な学び」の手立ては、教材の視覚化、既習事項の確認、具体的な場面を取り上げるなどが多く、普段から興味関心を引いたり、子どもたちが内容を理解しやすくしたりするために様々な手立てをしていることがわかった。一方、「見通しを持つ」「粘り強く取り組む」などの手立ての記入は少なかった。このことから、受講者は教えるという意識が強く、子どもの主体的な学びを支えるという教員の役割をあまり意識していないのではないかと考えられる。

「対話的な学び」の手立ては、ペア、グループなど学習形態や準備物についての記述、「自分の考えを説明」「他者の考えを説明」が多かった。受講者の対話的な学びの捉えが、ペアになって話をしているなど形式的なものとなっているということが明らかになった。

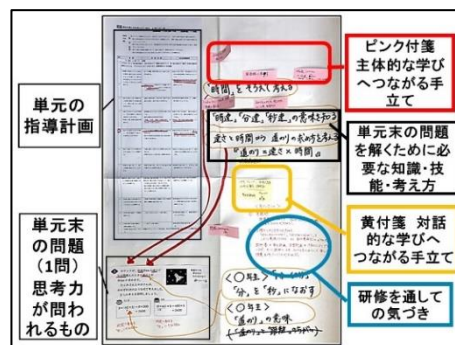


図2 8月 作成例

(様式4)

### 3 研修プログラムの完成

#### (1) 講義

主体的な学びは、「学びに向かう力を刺激する様々な工夫（手立て）」を教員が持つことが必要であること、特に「見通しを持つ」ための例を紹介する。

対話的な学びの目的は「自己の考えを広げ深める」であり、対話を通して育む資質・能力は何かを明確に持つ必要があり、対話の内容が重要であることを説明する。

「主体的・対話的で深い学び」は、資質・能力を育成するための授業改善の視点であることを確認する。

#### (2) 演習 (図4)

##### ア 「知識の活用・発揮」の場面までのつながりを把握する

単元末の問題を単元構成イメージ(例)にある「知識の活用・発揮」の場面と設定し、その問題を解くために必要な知識・技能をどこで得るのか逆向きに単元を捉える。この演習を通し、単元末の問題を解くためには単元の前半で習得した複数の知識・技能が必要であり、つながりが視覚化される。

##### イ 対話的な学びへつながる手立てを考える

対話的な学びにより知識を習得させたいところを「発問」と「手立て」に分けて検討する。「発問」を考えることで対話の内容が具体的になる。

##### ウ 「知識の活用・発揮」の場面の課題を検討する

単元全体の知識を使ったり、日常生活に生かしたりできるような「知識の活用・発揮」の場面の課題を考えることで、深い学びにつながる課題を考えるきっかけとする。



図4 演習内容

### III 成果と課題

#### 1 成果

- (1) 単元を見通した指導計画を立てることができる実践的な研修プログラムを作成できた。このプログラムにより、受講者は単元をまとまりとして捉えられるようになるとともに、協議内容を生かして普段の授業改善に結びつけることができる。
- (2) 演習にグループ協議を取り入れたことで、ともに学び合う「主体的・対話的で深い学び」を体感するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために必要な視点を受講者自身が明らかにし、協働的に単元の指導計画を作ることができる。

#### 2 課題

- (1) 実践につなげるために、グループごとに異なる単元を検討することにした。そのことで、準備に時間がかかるとともに、全ての単元の細部まで把握することは難しかった。改善点として演習に取り上げる単元を一つに絞り、研究授業のための教材研究として本研修プログラムを利用すれば、教員全体で授業を作っていく意識の向上につなげることができる。
- (2) 本研究では、小学校算数科で単元の指導計画を検討する研修プログラムを作成したが、「主体的・対話的で深い学び」は、全校種全教科に共通する授業改善の視点である。また、単元の指導計画を作成するためには、子どもの実態や目指す子どもの姿等、様々な要素を検討する必要がある。研修で伝達した内容は限られており、学んだことを汎用的に使えるようにする工夫が必要である。